

国連ミャンマー専門家の訪日について

ジュネーブ(2023年4月17日) –ミャンマー人権状況に関する特別報告者のトム・アンドリュース氏はこのたび、4月19日から28日にかけて訪日調査を行うことになりました。

アンドリュース氏は「ミャンマー情勢が悪化を続ける中で、日本が深まる人権危機への取り組みでリーダーシップを発揮することは不可欠になっています。民間人に対する武力攻撃は激化し、政治犯の数は増加し、ただでさえ膨大な人道支援のニーズはさらに高まっているからです」と語っています。

アンドリュース氏はさらに「アジアの強固な民主主義国として、日本はミャンマー危機への対応で地域的リーダーシップを握ることのできる絶好の立場にいます。私は日本政府に対し、その影響力を行使して、残虐な軍事政権を孤立させ、その力をそぐとともに、ミャンマーの人々にとって最も強力な同盟者となることを強く促したいと思います」と述べています。

特別報告者は東京で、日本政府や国連機関、人権団体、日本企業、そしてミャンマー出身者の代表と会談する予定です。また、京都も訪れ、京都大学東南アジア地域研究研究所で講演を行います。

特別報告者は現地時間4月28日正午から、東京の日本外国特派員協会にて記者会見に臨み、とりあえずの所見をメディアと共有いたします。記者会見に参加ご希望のジャーナリストの方は、メール(front@fccj.or.jp)または電話(03-3211-3161)で氏名と所属先の登録を行ってください。記者会見にジャーナリスト以外の方々はご参加になれません。

* * * * *

トーマス・アンドリュース氏(米国出身)は、[ミャンマー人権状況に関する特別報告者](#)です。元米国メーン州選出下院議員で、イェール・ロー・スクールの人権上級研究員(Robina Senior Human Rights Fellow)とハーバード大学アジアセンター準会員を務めています。アンドリュース氏は、国際問題民主研究所(NDI)のほか、カンボジアやインドネシア、アルジェリア、クロアチア、セルビア、ウクライナ、イエメンの国会議員やNGO、政党との協力経験があります。また、ビルマ連邦国民連合政府と欧州ビルマネットワーク(Euro-Burma Network)のコンサルタントを務める傍ら、Win Without War や United to End Genocide などの人権擁護NGOの運営にも携わっています。

特別報告者はいわゆる国連人権理事会特別手続きの一要素です。国連人権システムの中で最大数の独立専門家を抱える特別手続きは、具体的な国別の状況または全世界のテーマ別問題に取り組む人権理事会独自の実情調査メカニズムの総称です。特別手続きの専門家は自由意志でその任務に就いており、国連の職員でもなければ、その活動に対する報酬も受け取っていません。どの政府からも組織からも独立し、あくまでも個人の資格でその職務を遂行しています。

国連人権高等弁務官事務所国別ページ – [ミャンマー](#)

さらに詳しい情報と取材のお申込みについては、Sara Brandao (sara.brandao@un.org)にお問い合わせください。

その他の国連独立専門家に関するメディアのお問い合わせは、Maya Derouaz (maya.derouaz@un.org) または Dharisha Indraguptha (dharisha.indraguptha@un.org) までお願いいたします。

国連の独立人権専門家関連のニュースについては、Twitter で [@UN_SPExperts](https://twitter.com/UN_SPExperts) をフォローしてください。

私たちが暮らす世界のことが気になるのなら、
今すぐ誰かの権利のために立ち上がろう。

#Standup4humanrights

ウェブページ <http://www.standup4humanrights.org> をご覧ください。

||| |